

キャラクター名
霧咲響

プレイヤー名

シンドローム	サラマンダー		ワークス	高校生	カヴァー	高校生
	サラマンダー					
オプション			年齢	15歳	性別	女
覚醒	無知	衝動	自傷	初期侵食率	31	%
出自	天涯孤独	経験	親友	邂逅	家族	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	32
肉体	4	1	0			5	行動値	4
感覚	0	0	1			1	(非装備時)	4
精神	2	0	0			2	戦闘移動	9
社会	2	0	0			2	全力移動	18

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	4		射撃			RC	2		交渉		
回避	1		知覚	1		意志			調達		
運転:			芸術:			知識:			情報: 噂話	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
	白兵	11r+4				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
応急手当キット	
カジュアル	
携帯電話	
アクセサリ	
制服	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイム	消費
桐生未来	P 信頼	N 恐怖		
亡くなった両親	P 幸福感	N 悔悟		
永遠の炎	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4 残り財産P: 1

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
CR:サラマンダー	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果: C値を-LV値(下限7)								
結合粉碎	3	3	メジャー	-	-	対決	ピュア	
効果: 攻撃のダイス+LV個。装甲無視攻撃								
フレイムタン	2	2	メジャー	視界	-	対決	-	
効果: 白兵攻撃の射程を視界に変更。攻撃力を-[5-Lv]								
白熱	1	3	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果: 素手を技能:白兵、命中:0、攻撃力[Lv+5]、ガード値:4、射程:至近に変更								
炎の加護	3	2	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果: 判定ダイスを+Lv個								
閃熱の防壁	2	4	オート	視界	視界	自動	ピュア	
効果: 自身以外の対象が受けるダメージを-[Lv+2]D点。1R/1回								
永遠の炎	1	4	セットアップ	至近	自身	自動	Dロイス	
効果: 攻撃力を+[Lv*4]点。ラウンド中行動値を-5								
快室適温	1	-	メジャー	至近		自動	-	
効果: 快適空間を提供する								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

彼女の名前は霧崎響。どこにでもいる明るい女子高生であり、普通ではない過去を抱える少女。彼女を語るのであれば、時の針を逆しまに回さなければならぬ。

5年前の事。彼女は街の象徴でもあるミリニウムタワーの感謝祭イベントに、家族三人で向かった。優しい父、綺麗な母。温かい家庭に生まれ、仲睦まじい家族に囲まれて暮らしてきた響。それは当たり前で幸福で、あの日もその延長でしかなかったと記憶している。

ミリニウムタワーのイベントは盛況だった。前々から有名だった事もあり、催しには多くの人々が参加。まるでお祭りだと父が笑い、迷子にならないように母が手を引いてくれた。最初は慣れない人ごみで萎縮していたが、もの数十分で笑顔を見せるようになっていたと思う。

幸福と感謝。響はその時、間違えなく自分と家族の平和を疑わなかったし、過去と未来に因果する全てに、平穩無事以外の関係性を考えた事もない。要するに、これまでの生活が、これからも同じように続くと、そう信じていたのだ。

——紅蓮の業火がうねりを上げ、全てを灼熱に包み込んだ、あの瞬間までは。

それは、響の脳裏に焼き付いて離れない光景。煌びやかな空間に、忌まわしい破壊の爪痕を刻んだ事件。後にミリニウムタワー炎上事件と呼ばれるソレは、簡潔な表記とは裏腹に、あまりにも凄惨な事象だった。

橙色の炎に巻かれ、人が脂の臭いを撒き散らす肉塊となった。爆発で吹き飛ばされた人は四肢と胴体が離れ、崩れ落ちた瓦礫の下にいた人は……人の形をしていたかも怪しい。どういう末路を迎えたのか、それは個人で差があるだろうが、響からすれば、皆似たり寄ったりな最期だった気がする。

あれ？ どうだっただろう。響の目の前で炎に焼かれたのは、自分が父と呼んでいた人ではないだろうか？ 自分を守るように爆風に巻き込まれた人は、母と呼んでいた気がする。